

安全な佐屋駅整備の実現を

質問

今年3月の予備調査報告書から、半年たっているが、現在までに進めていることや、関係機関と協議したことはあるか。

経済建設部長

雨降りなどいろいろな機会に、現地へも出向いて確認はしている。その中で、県道佐屋・多度線については、踏切をまたいで南側に駐輪場、東側に駐輪場という状況であり、何とか少しでも安全対策ができないかと、海部建設事務所をお願いしている。

質問

駅の整備を、藤浪駅、勝幡駅ともう2回も取り組んだ。市の職員は、そのノウハウを大いに生かして、安全な佐屋駅が早急に実現されるよう求める。

安全性の向上や公共交通の利便性の向上、また観光の振興などに関わる佐屋駅の整備は急務だが。

市長

機会があるごとに、関係機関に対して要望している。県道については安全性の確保を



河合克平 議員

要望している。今後は、名鉄に対し、今後の佐屋駅についての計画があるのか聞いていく。

新庁舎周辺の通学路の安全確保を

質問

平成24年6月議会の一般質問で、通学路の危険箇所把握はそれぞれの学校に任せ、集約していないとの回答があったが、現在の状況は。

教育部長

24年以後、25年に緊急の合同点検を実施した。その合同点検の中で、今後の整備の計画を立てた。危険箇所とされた場所の通学路に「学童に注意」という黄色い看板を15カ所設置し、歩道のない通学路にはカラー舗装を14カ所行った。

質問

庁舎統合により、本庁舎は、1日あたり約1000人の来庁者になり、300人の職員が増

える。考えつかない危険な状況となるのでは。

教育部長

現状の通学路としては、より一層注意しなければならぬと認識している。全体的に交通量が増えれば、危険であると認識している。

質問

職員の通勤路の見直しや制限など、危険箇所をできるだけ通らないように通勤するよう検討をしてはどうか。

総務部長

正規職員、臨時職員あわせて約200人の車両通勤者が増えると想定している。通学時間帯も危険箇所を勘案し、職員の通勤経路の設定を柔軟に対応していくことも必要と考えている。当然、職員に対し、児童・生徒に対する安全意識は徹底していく。

